

秋田県立五城目高等学校 中期ビジョン

本校が目指す姿

1 学校の現状や課題

① ユニバーサルデザインを意識した授業改善と「五高ベーシック」の充実

多様な生徒に対応した授業を基礎として、すべての生徒が学ぶ喜びを感じられるような授業展開をめざし、常に生徒目線に立った授業改善に取り組んでいる。開始から10年が経過した「五高ベーシック（学びなおし）」は地域からの評価も高く、生徒の学習意欲を刺激する役割を果たしている。生徒の実態に即した修正を加えながら常に改善していくことが継続した課題である。

② 丁寧できめ細やかな生徒指導

生徒一人ひとりに応じた丁寧できめ細やかな生徒指導は本校の教育の大きな柱であり、これまでの取組によって、あいさつや礼儀などが地域から認められ信頼を得ている。こうした評価は進路指導をはじめとして多方面に好影響を与えている。

③ キャリア教育をベースにした教育活動と地域連携

地域にある有形無形の資源に着目し、キャリア教育を土台とした地域連携を展開することで、地域に貢献する人材の育成を行っている。社会の変化に柔軟に対応し、企業や上級学校が求める資質・能力を育てるために、生徒の主体的な学びや「五高サポーター制度」を活用した資格取得を支援している。一方で離職率を減少させることが継続課題となっている。

また、本校の入学者数は平成22年度以降、減少の一途をたどっている。男鹿潟上南秋地域の生徒数は令和2～7年度にかけて25.7%の減少が予測されており、秋田県平均の9%を大きく上回っている。地元からの入学生はもとより秋田市内や山本地区等からの入学者を確保することも引き続き重要である。

2 学校を取り巻く将来の状況の予測

人口減少や少子高齢化は日本全体の課題であるが、秋田県ではそれがより顕著で、とりわけ生産年齢人口が減少することが地域に多岐にわたる影響を及ぼしている。特に男鹿潟上南秋地域は、令和7年度までの5年間で県内10地区のうち中学卒業生数の減少が最大との予測がある（第七次秋田県高等学校総合整備計画後期計画資料より）。そのため、人口減少に対応しつつ活力も失わない学校運営が求められている。五城目高校の未来を考えたときに、学校の特色をこれまで以上に打ち出し、それを深め、独自性を失うことなく生き残っていく力を蓄える必要がある。

3 スクール・ポリシー エデュケーション・ゴール

「真実」「克己」「規律」の校訓のもとに、日々の学校生活をとおして、心身共に健康な人間を育成する

グラデュエーション・ポリシー（目指す生徒像）

- (1) 互いの人格を尊重し、適切な人間関係を形成できる生徒を育成します
- (2) 自らを理解し、今後の成長のために望ましい方向へ進んでいける生徒を育成します
- (3) 自らにふさわしい進路選択・決定を行い、課題を設定して取り組む生徒を育成します
- (4) 情報を収集・活用して自らの将来を設計し、その実現に向けた計画を実行できる生徒を育成します

カリキュラム・ポリシー（本校の学び）

- (1) 多様な進路希望に対応できるよう3つのコース制を導入するとともに、習熟度別少人数指導、課外補習、資格取得奨励により、生徒一人一人に確かな学力の定着・伸張を図ります
- (2) 生徒が元気で活気にあふれ、学ぶ喜びを感じながら主体的にキャリア形成ができる教育を推進します
- (3) 規律ある生活習慣や整容・挨拶・マナー等の指導を継続し、障がいの理解やいじめ防止の意識を高め、他者を尊重し互いに助け合いながら成長できる教育を推進します
- (4) 高度情報化社会に対応できるようICT教育の充実を図ります
- (5) 地域に根ざした教育を継続し、地域と連携した「探究型学習」を推進します

アドミッション・ポリシー（求める生徒像）

- (1) 将来の目標を明確に設定し、各教科への強い学習意欲をもって取り組む生徒を求めます
- (2) 部活動に意欲的に取り組み、心身の成長を目指して努力する意志のある生徒を求めます
- (3) 社会のあり方に関心を持ち、地域や社会に貢献しようとする意欲のある生徒を求めます

5年間を通しての具体的な目標と取組

1 5年間を通しての具体的な目標

- (1) 生徒が主体的に学ぶ意欲を育みます
- (2) 進路指導を充実させ、生徒の進路希望の実現を支えます
- (3) 「立ち止まっての挨拶」に代表される本校の生徒指導を継続します
- (4) 「地域」をテーマに五高の探究活動を推進します
- (5) 生徒会活動・部活動を通じた生徒の成長を支えます

2 目標を達成するための具体的な方法、取組等

◎各教科・科目の指導と授業改善について

- 授業の開始時・終了時の服装・礼法指導、ベル即授業の徹底
- キャリア教育の視点（学ぶ・生きる・働く）を意識した授業
- 「五高ベーシック」や朝学習の充実と改善、ICTの効果的な活用
- 生徒の主体的・対話的で深い学びのためのユニバーサルデザインを踏まえた授業改善
- 主発問に加え補助発問の活用や身についた力の確認作業（振り返り）
- 授業アンケートの評価目標値4.7以上（前回の目標値4.6、直近2年は全学年平均4.6）

分かる喜び



◎人生や社会について考えさせる
◎自ら「なぜ？」と考えさせる
◎思いや考えを自らの言葉で表現し
他者に伝えようとする



◎深く学びたいと思わせる授業
◎プラスαのある授業

◎進路指導について

- 保護者との連携を保ち、3年間を見通した進路指導で進路決定率100%の継続
- 全員参加のインターンシップによる実践的なキャリア教育の推進と離職防止の取組
- 「五高サポーター制度」を活用した資格取得の奨励
- 国公立大学と看護系上級学校の進学者をそれぞれ複数名継続

◎生徒指導について

- 全職員で行う丁寧できめ細かな指導
- いじめ防止基本方針に則った予防と早期発見、組織対応によるいじめ0（ゼロ）
- 清掃指導をとおした生活環境の保全と社会性や公共性の育成
- 教育相談機能や特別支援教育体制の充実

◎「地域」をテーマに五高の探究活動を推進します

- これまでの地域連携活動の積極的な継続と内容の充実
- 「総合的な探究の時間」を活用した生徒の主体的な地域学習の展開
- 職員それぞれが取り組む地域連携

◎特別活動・生徒会活動・部活動を充実させて生徒の成長を支えます

- 特別活動の指導をとおした社会性や人間性の育成
- 生徒会執行部を核とした、生徒による自主的な生徒会活動の支援
- 部活動への参加奨励と活性化、及び東北大会、全国大会への出場

